



連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

前回の院長室だよりで新型コロナウイルスに関して触れました。その頃には、この騒ぎは長くとも6月には終息するだろう、その後1年延期と発表されたオリンピックが開催される時期には大凡日常を取り戻しているだろう、と内心思っていました。しかしこれは全くの見当違いで、この感染者は一旦減少したものの7月になると勢いを取り戻し、大都市圏を中心に過去最高の感染者数を記録しています。

「ウイルスがどんどん形を変えている」「一旦感染が隅々まで行き渡るまで勢いは収まらない」「毎年同じように流行する」などお先真っ暗な噂話もまた留まるところを知りませんが、先日耳にした情報では現在25000人ほどの感染者は200~500万人に、同じく1000人程度の死者は30万人に至る、とされている説は季節性インフルエンザ感染をベースに導き出した数値であり、実際には感染力、人体への影響力は比較的弱いため、日本では感染者が10万人程度で死者は数千人が本当の所ではないかということです。

日々の報道で「東京で何百人」「大阪で何十人」「神奈川で・・・、埼玉で・・・、千葉で・・・」と聞いているだけで今にも感染しそうな印象ではありますが、冷静に見ると人口の多い地域で3密の環境になれば感染リスクが高くなるという、これまでの経験からは当たり前の結果が出ているのだと思います。

これからは更に人が移動する段階となります。ミサトピア小倉病院としては溢れている情報から病院にとって必要なものを抽出して有効に活用し、油断するでもなく過剰に反応するでもなく、冷静に地に足をつけた対応を心がけていきたいと思っています。

表紙写真 写真タイトル：「安曇野道祖神」 撮影者：樋口 孝

安曇野には数多くの道祖神があります。村の守り神として、身近な神として、男女が遠慮がちに寄り添って立つもの等、その姿態はさまざまです。今回は道祖神として貴重な色の付いた双体握手像を撮りました。

お花見



今年も4月に各病棟毎お花見を行いました。
 予定していた日程通り、タイミング良く満開の桜を見ることができました。

久しぶりの屋外に患者さんからは「桜がきれいだった」「外は涼しくて気持ちがいい」「外に出られて良かった」等の感想が聞かれました。

お花見の後には毎年恒例のカラオケ大会を行いました。普段のOT活動でのカラオケとは違い、職員とデュエットしたり、職員の歌を聴いたりでき、とても楽しんでいる様子でした。

参加した患者さんからは「とても楽しかった」「職員の歌が良かった」「一緒に歌えて良かった」等の感想が聞かれました。



七夕

7月の始めに各病棟毎に笹を設置し、患者さんと一緒に飾り付けや短冊に願い事を書きました。

OTの活動内で折り紙を使って輪飾りやちょうちん等を作り、飾り付けをしました。

短冊には「健康になりたい」「退院したい」「家族が幸せでありますように」等、皆さん願いを込めて書き込んでいました。



作品展示



6月16日、17日の二日間、病院行事として作品展示会を行いました。

患者さんが個人OTや病棟OTでの活動で作った作品を展示し、日頃の頑張りを皆さんに見てもらう良い機会となりました。

二日間、午前と午後に分かれ各病棟がゆっくりと作品を見て回ることが出来るようにし展示会場内を何往復もして、じっくりと見ている患者さんも多くいました。



患者さんからは「自分達の作品は勿論、他病棟の患者さんの作品の出来栄えに感心した」「みんなの作品を見ることが出来て楽しかった」「他病棟の患者さんの作品に刺激を受けた、とてもきれいで素敵だった」「自分の作品が展示されていてうれしかった等の感想が聞かれました。

見学をした職員からは「普段のOTではゆっくり作品を見ることが出来なかったが、患者さんと完成品をゆっくり見ることが出来てよかった」「患者さんが自分の作品を見ると表情がパッと明るくなった。自分の作品を他の人に見てもらう機会はとても大事だと感じた」等の感想が聞かれました。



普段のOT活動内でも「作品展に出したいんです」と作品作りをがんばっている姿も見られ、作品展示会に作品を出品し他の患者さんに見て頂ける事が患者さんの活動に対する達成感に繋がっていると感じました。



防火防災訓練

令和2年5月13日（水）に防火防災訓練が行われました。

今回は昼間の火災を想定し、いかに素早く現場に対応し、安全に避難を完了するか、職員同士の連携も重視しての訓練でした。

訓練後は、新入職員を中心に、消火設備の取り扱い、そして、放水訓練を行いました。

当院では保守保安委員会を中心として、火災・災害に適切に対応できるよう、準備・研鑽が行われています。



ばらの日



令和2年6月15日（月）に城西医療財団の永年勤続表彰「ばらの日」が行われました。当院からは、勤続35年2名、25年1名、20年1名、15年4名、10年2名、5年6名の計16名が表彰され、記念品が贈呈されました。



ロールケーキ、プリンの差し入れを頂きました



「おいしい」という声もあちこちら拳がり、皆さんは嬉しいサプライズに舌鼓を打ち、楽しいひと時を過ごしていました。

令和2年7月17日（金）、安曇野市三郷に在ります木村設業様のご厚意により、入院されている皆さんにロールケーキとプリンの差し入れを頂きました。

差し入れはおやつの時間に提供され、かわいらしい包装もあって皆さんに笑顔がこぼれていました。



病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 医療介護福祉の連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟200床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103

長野県安曇野市三郷小倉6086-2

TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団

ミサトピア小倉病院

編集後記

泣きっ面に蜂 踏んだり蹴ったり 弱り目に祟り目 いずれも悪いことが重なる例えです。が、良いことが重なる例えは、鴨が葱を背負って・・・ニュアンスがちょっと違うかもしれませんが、調べた範囲ではこれぐらいしか見つかりませんでした。人間は悪いことの方が良く覚えているようで、生命体として、危険を避けるヒントにするシステムなのだそうです。ことさら暗い話題ばかりが目についてしまう昨今ですが、良い出来事も心に留め置き豊かな気持ちでありたいものです。